

株式会社キッズステーション

番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024 年（令和 6 年）12 月
2. 開催場所 虎ノ門タワーズオフィス 6 階会議室 Room5
3. 委員出席

委員総数 7 名

出席委員数 7 名（対面参加 4 名、書面参加 3 名）

出席委員の氏名 重村 一（委員長）

内山 隆（書面参加）

樹林 ゆう子

高橋 望

金子 ありさ（書面参加）

桶田 大介

森川 美穂（書面参加）

4. 議題

審議作品「SPACE KIDS STATION ひらけ宇宙の扉 ～ぼくらは宇宙取材班～」  
第 1 話、第 2 話、第 11 話、第 12 話（各 13 分）について

放送日程：2024 年 7 月 6 日から毎週土曜 15：00（キッズステーション）

審議作品概要：子ども達が大人になる近い未来、宇宙はもっと身近な生活圏になる。そこにはどんな暮らしや遊び、仕事があるだろう。宇宙に興味のあるキッズジャーナリストたちが、いまを取材し、未来を創造するキッズステーションオリジナルエデュテイメント番組です。

## 5. 議事の概要

### ① 本作品のご感想

② 本作品のターゲット 6 歳以上の小学生をメインターゲットに設定しております。作品をご覧になられてそのようなお感じになりましたでしょうか。

③ 番組をご覧になって子供たちが「宇宙」に興味を持ち、宇宙を身近に感じるきっかけとなるエデュテイメント（教育・娯楽）番組であるとお感じになりましたでしょうか。

④ その他、番組内の表現やテーマなどでお気づきの点などがございましたらご意見をお聞かせください。

## 6. 審議内容

- ・ あまりにも真面目に作っている。こういう番組は大事だが、もう少し見せ方は工夫できたのではないか。
- ・ 宇宙へ挑戦していく過程の難しさについて、わりと簡単に説明してしまっている。その大変な部分をいろんな形で話していかないと子供に興味を持たせられないのではないか。
- ・ 学校の教室で生徒に見せる教育テレビのような感じがしてしまう。キッズステーションは有料チャンネルなので、どうしても見たいという惹きつけられる要素を、構成上、演出上も工夫することが必要。
- ・ 監修者はいるが、構成や演出の部分で汗をかいている人間が足りないと感じた。わざわざ契約してまで見ようと思う要素がどこにあるのか、そこを最大のテーマとしてやっていかないといけない。
- ・ せっかくたくさんのキッズを集めているのに、“にぎやか”にしかなくなっている点が残念。出演者たちは立ちっぱなしで、全く動きがないところが、その印象を加速させている感じがした。
- ・ 大人でも、極端に退屈しない作りであり、内容なので、小学校低学年には妥当だと思う。
- ・ 様々な実験やトライアルが行われていることを通して、宇宙が身近な生活圏の延長にあることは伝わる。一方、宇宙が身近な生活圏とは異なるシビアな環境であることの情報は、もう少し演出しても良いと思った。
- ・ ヴァーチャル・プロダクションによる製作、被写体と背景のパースの一致、カメラ・アクションと背景画の動きが綺麗に同期しているので、とてもよいと思う。それゆえに、今後、ますます背景画 CG の精密さが求められるように思った。

- ・取材記者の子供たちが高学年であり、6歳の子供が対象というには難しいと思った。
- ・取材する子供たちがみんな良い子で、優等生すぎる部分が引かなかった。バラエティー色がもう少しあると良いと思った。
- ・子供たちが、人の話を聞いているだけの印象。もっとアクティブに、低学年も加えて低学年なりの子どものらしい質問疑問があっても良い、また周りで質問を集めてきて「子ども代表で聞きます」といったものがあっても良い。子供側からのアクションがもっと見たいと思った。
- ・子どもは思った以上に深い話しで興味を持つ。総花的な紹介にとどまらず、突っ込んだ話の回があっても良いと思った。
- ・宇宙についてのネガティブな話題がもう少しあってもよいと思った。
- ・メタバースで見せるあたりはすごく面白い。子供が自分もやってみたいと思うだろうなという仕掛けがいっぱいあり良かった。
- ・企画は素晴らしいので、座学でもよかったのではないかな。
- ・子供の人数が多すぎる。せいぜい2〜3人で良いのではないかな。
- ・子供たちが取材記者という設定であれば、取材対象は「宇宙」なので、宇宙に行って取材をして、地球の子供たちにそれを伝える。という作りになっていないと成立せず、設定に無理があると思った。
- ・エコハウスの取材などは、「宇宙でも使えるかもしれない」と無理やり言っているだけ。終盤でJAXAに取材に行くが、1話からJAXAでも良かったのではないかな。
- ・良心的でキッズ向けにふさわしい、親も安心して見せられる良コンテンツだと思うが、自分の子供が見るか？と言ったら少々難しい気がした。
- ・スタジオトークが長いと刺激がなくなりBGM化してしまいそう。その代わり大人の視聴に役立てくれる上質さがある。
- ・滝沢カレンさんに、期待するいつもの面白さが消えてしまっている気がした。ロケで宇宙センターに行く回などは画が変わり、ワクワクした。
- ・Eテレのように（オフロスキーや、フックブックローのような）司会がキャラ化していると良さそうな気がした。宇宙に関しては、分かりやすく、とても興味を持って拝見した。
- ・ターゲット設定がとても難しいところだと思う。小学校低学年はもう少し賑やかじゃないと教育番組感が強く、とてももたない気もした。高学年のお子さんたちが、ちょっと構えて、知識として取り入れる番組という感じがした。思い切ってスタジオトーク部分などで、バラエティー色を強くして、おふざけ要素があると、Eテレとの差別化もできると思う。
- ・教育として過不足なくバランスよく、情報が詰め込まれていると思うが、子供は子供が出ているから見るのではなく、好き嫌いがはっきり出て逆に敬遠する向きもあると思う

ので、どんな大人が出ているか、どんな（憧れられる）お兄さんお姉さんが出ているかが大事だという気がする。子供の出演者を減らし、違うチーム編成もあると思った。内容はとても上質でしっかりしているので、どうコーティング（娯楽化）するかが面白い挑戦となるのではないか。

- ・ 宇宙の内容については、もともと興味のある子に掘り下げるのか、全く興味のない子を取り入れるのかで方向性が変わるように思った。 実際、イーロン・マスクや宇宙産業の拡大など、現実には起きていること、実感を伴ってから毎回のテーマに入ると、より興味を持てると思う。それを含めての「ゲート」の作り方（スタジオ部分）の工夫ではないかと思った。
- ・ JAXA取材部分は通り一遍の話しで終わるのではなく、職員の方の素直なりアクション等も含めてあまり見られないようなものが見られて興味を持て良い印象を受けた。
- ・ 子どもの人数が多い、絞った方が見やすく共感しやすい。その上でそれぞれに何らかの役割を持たせた方が良いのではないかと感じた。
- ・ 最近の子供たちはY o u t u b e 含め、情報量が多く、いろいろなものに接しているが、必ずしも整理されて渡されているわけではないと思うので、なるべく公式に近い形で、筋が通った説明等がされていると興味を持ちやすいと思った。
- ・ 進行役の男性に関して、学術経験者の方々から様々な異議が呈されている方だと認識しており、人選はある程度オーソドックスな方が良いのではないかと思った。
- ・ 直近で話題になったもの、子どもたちにとって身近であり、頑張れば手の届く感のあるテーマの方が興味を持つと思った。
- ・ このような番組は意外に少ないので、とても貴重な番組だと感じた。
- ・ 6歳以上となっているが、字幕にふりがなをプラスしてあげると小さな子供も、もう少し理解しやすいのではないかと思った。
- ・ 実際、私たちが子供の頃より、今ははるかに宇宙を身近に感じている。さらに、宇宙飛行士を支える様々な仕事があることなど、通常のテレビ放送では知ることができないことも、多く子供たちにはとても刺激ある番組だと感じた。
- ・ カメラアングルはどうしても大人の目線になるが、JAXA の様子など子供目線でのアングルなども取り入れたりすると面白いかなと思った。また出演者の子供たちが賢すぎて驚いた。ジャーナリスト然とした質問や、受け答えも素晴らしかった。

## 7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

番組演出の改善点など、今後作品をよりよくしていくためのアイデアも多く教示いただきました。こうした各員からのご意見を制作者に共有し、今後の制作の参考として参ります。

以上